

【OIE情報】台湾における高病原性鳥インフルエンザ（H5N2）の発生について

台湾における高病原性鳥インフルエンザ（H5N2）の発生について、OIEへ報告がありましたのでお知らせします。本報告は2015年1月12日付けの雲林県及び屏東県における発生報告の続報（続報5）です。

【出典】

OIEウェブサイト（2015年1月21日付け）

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=17021
(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数：39件（続報5）
- ・発生日：2015年1月16日～1月17日
- ・OIEへの報告日：2015年1月21日
- ・血清型：H5N2（高病原性）*
- ・臨床徴候あり

（※動物衛生課注：過去に台湾で検出された株と異なるウイルス）

【発生状況】

- ・発生場所：雲林県（うんりんけん）の農場 25件
- 屏東県（へいとうけん）の農場 6件
- 嘉義県（かぎけん）の農場 3件
- 高雄市（たかおし）の農場 3件
- 彰化県（しょうかけん）の農場 2件
- ・合計感染動物数

【動物種】	【飼育羽数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
家きん*	172,324	30,086	30,086	13,318	0

※がちょう、種がちょう、あひる、地鶏

【疫学情報】

- ・感染源：不明又は調査中
- ・異常な死亡率が屏東県、雲林県、嘉義県、彰化県及び高雄市の39戸の水きん及び鶏農家で確認
- ・診断のために検体を家畜衛生試験所へ送付
- ・家畜衛生試験所においてH5N2亜型の高病原性鳥インフルエンザであると確認
- ・これらの農場は移動制限下に置かれている
- ・感染農場の全ての動物は淘汰される予定
- ・正確な淘汰数は淘汰が終了した後に続報で報告する予定

- ・淘汰後に洗浄及び消毒が行われる予定
- ・感染農場の半径3km以内にある家きん農場は、3か月間強化サーベイランス下に置かれる

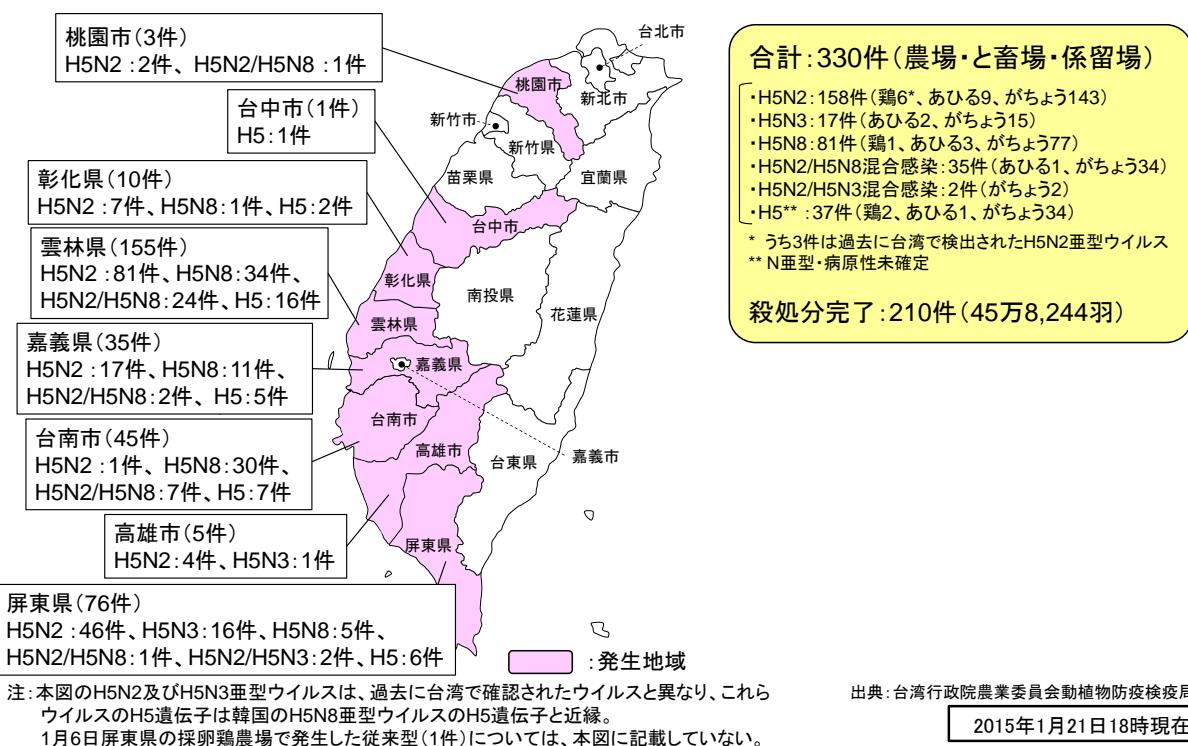
【対応】

- ・淘汰
- ・隔離
- ・国内における移動制限
- ・スクリーニング
- ・ゾーニング
- ・施設等の消毒
- ・ワクチン接種禁止
- ・患畜を治療対象としない

【診断】

- ・診断場所：家畜衛生試験所（国立研究所）
- ・診断法：RT-PCR：陽性（2015年1月18日～1月19日）
- ・遺伝子配列確認：陽性（2015年1月19日～1月20日）

参考1：台湾における高病原性鳥インフルエンザの発生状況（2015年1月以降）



参考2：台湾当局情報

（1）台湾行政院農業委員会動植物検疫局公表資料（1月11日～1月21日、下線は更新点）

<http://ai.baphiq.gov.tw/>

- ・2014年11月から12月にかけてあひるやがちょうで異常な死亡状況が確認され、当局はと畜場及び化製場における検査システムを強化して実施したが、明らかな異常はみられなかった。
- ・同年12月末にあひるの産卵率の低下が報告され、同日、直ちに各県及び市の動物防疫機関に全面調査を依頼。
- ・2015年1月7日以降、水きん類のサンプルで HPAI (H5N2、H5N8 及び H5N3 亜型) が確認。
- ・遺伝子解析の結果、H5N8 亜型ウイルスは、2014年に韓国で検出された H5N8 亜型ウイルス（以下、韓国株という。）と最も近縁。
- ・H5N2 亜型ウイルスは、過去に台湾で検出された株と異なるウイルスであり、その HA 及び NA 遺伝子は韓国株の H5 遺伝子及び 2011年に中国吉林省で検出された H5N2 亜型ウイルスの N2 遺伝子と最も近縁。
- ・H5N3 亜型ウイルスの H5 遺伝子は、韓国株の H5 遺伝子と 99%の相同性を示し、N3 遺伝子は 2010 年にモンゴルのマガモから検出された H2N3 亜型ウイルス、2011年にタイのマガモから検出された H1N3 亜型ウイルス及び 2013年に高雄市のマガモから検出された H5N3 亜型ウイルスと 98%の相同性を示した。
- ・これらのウイルスは渡り鳥によって持ち込まれた可能性がある。
- ・台湾当局は一時的に水きん類のと畜を停止し、食肉処理場、ケージ、輸送車両等を消毒。
- ・臨床的な監視を強化、防鳥ネットの補強等の防疫対策を実施。
- ・2015年1月19日、台湾当局は、感染が疑われる段階で農家が自主的に通報をした場合、処分した家きん等を全額補償する制度を開始する旨公表（中央政府と地方政府が1／2ずつ負担）。
- ・苗栗県の家きん農家の周辺で回収された3羽の死亡留鳥のシロガシラについて、2015年1月19日に新型 H5N3 亜型ウイルスを確認。
- ・屏東県の長治郷で回収されたツグミ科の死亡野鳥の死体から、2015年1月19日に H5 亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスを確認。
- ・高雄市の茄萣湿地で回収されたカモ科の渡り鳥の排泄物から、H7N9 亜型鳥インフルエンザウイルスが検出され、遺伝子解析の結果、中国で検出された H7N9 亜型ウイルスとは異なることが確認。

（2）台湾畜産統計（台湾におけるがちょうの飼養羽数）

<http://agrstat.coa.gov.tw/sdweb/public/inquiry/InquireAdvance.aspx>

- ・2003年から2013年にかけて、がちょうの飼養羽数は徐々に減少（2003：275万羽→2013年：195万羽）。
- ・2013年時点で、雲林県、屏東県及び嘉義県で台湾の約75%のがちょうを飼育（うち雲林県は約40%）。